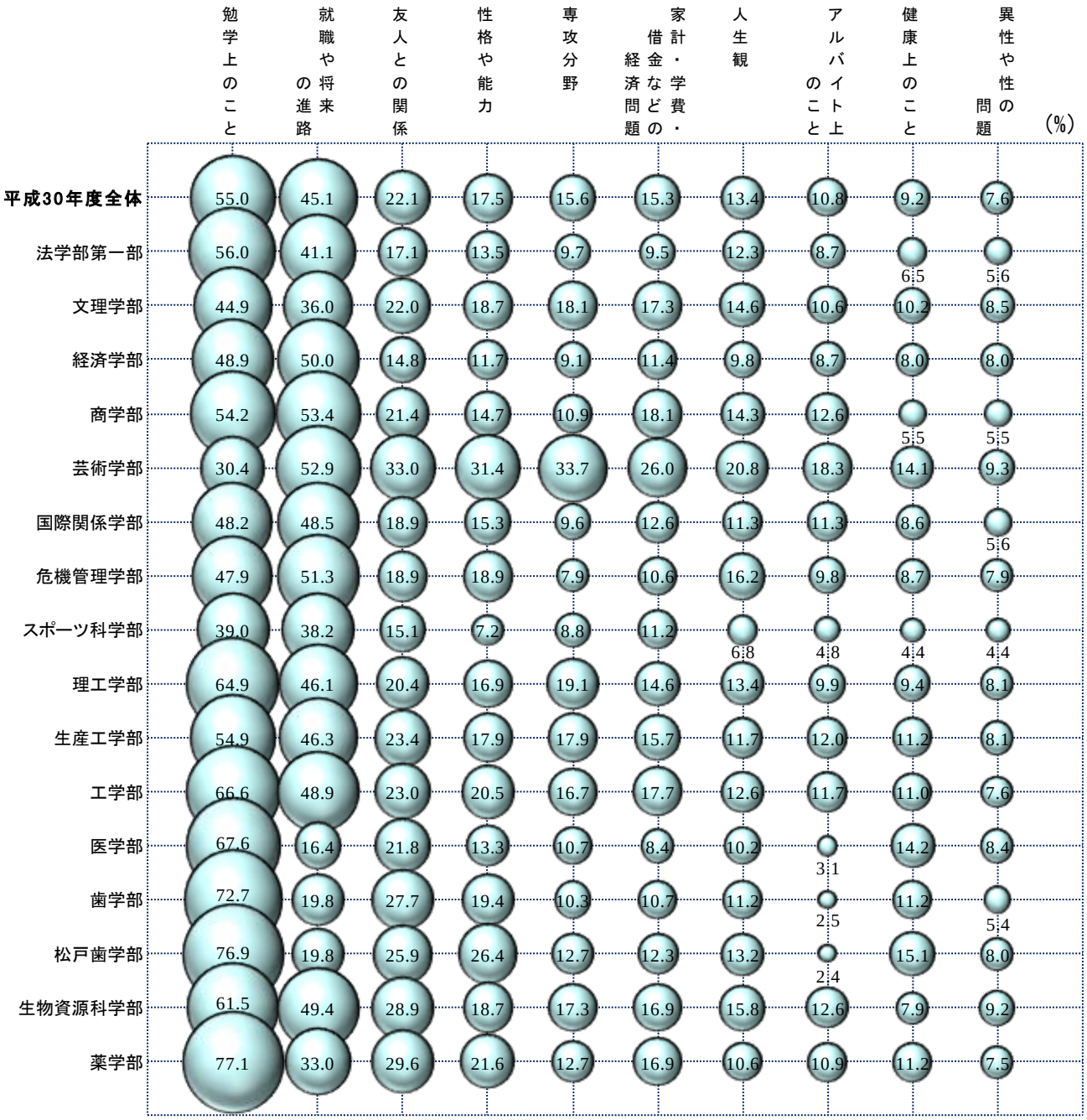
1.不安・悩み・問題（トラブル）の種類

本学学生の不安・悩みは，「勉学上のこと」が55.0%でトップ，「進路」が45.1%で２番目。
「勉学上」は医歯薬系学部，工学部，「進路」は商学部・芸術学部・危機管理学部等で高い。

在学中に経験した不安・悩み・問題（トラブル）を全体で見ると，「勉学上のこと」が55.0%で最も高く，「就職や将来の進路」が45.1%で続いており，本学の学生にとって勉学と将来の進路が主な不安・悩みであることがわかります。次いで，「友人との関係」「性格･能力」「専攻分野」「家計・学費・借金などの経済問題」「人生観」の順で高くなっています。

学部別に見ると，勉学上の不安・悩みは，医歯薬系学部，工学部で高い傾向が見られます。「就職や将来の進路」についての悩みは，商学部・芸術学部・危機管理学部・経済学部で50%台と高くなっています。

図5-1 不安・悩み・問題（トラブル）の種類（平成30年度全体・学部別）

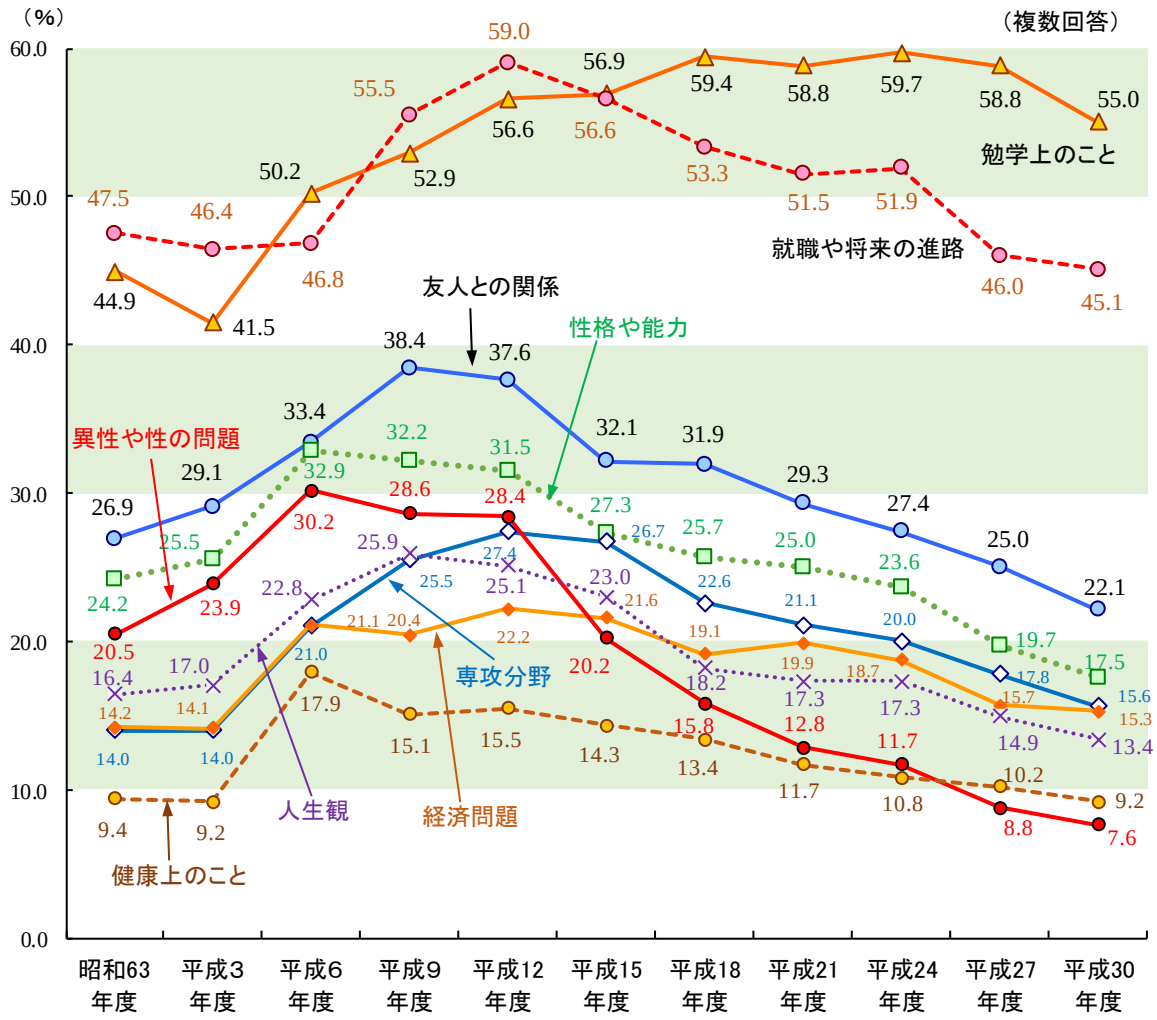


2.不安・悩み・問題（トラブル）の種類－主なものの経年変化

「勉学」についての不安・悩みは６年前から減少傾向。
「進路」は平成15年度から概ね減少傾向続く。進路を意識した学生指導の成果？
勉学など学生生活の充実に伴い，交友関係など他の悩みは大きく減少傾向。

学生が抱える不安・悩み・問題（トラブル）の主なものの経年変化を見ると，「勉学上のこと」が平成３年度の41.5％から平成18年度の59.4％まで15年間で17.9ﾎﾟｲﾝﾄ増加，その後は横ばい傾向となっていましたが，６年前より4.7ﾎﾟｲﾝﾄ減少し55.0％となっています。ただし，歯学部では漸増傾向が続いており，平成30年度までの27年間で30.4ﾎﾟｲﾝﾄ増加しています。「就職や将来の進路」は平成６年度から平成12年度まで急増し一時期学生の悩みのトップでしたが，平成15年度以降減少に転じ「勉学」を下回っています（平成12年度からの18年間で，法学部第一部・文理学部では23ﾎﾟｲﾝﾄ台の減）。社会情勢の変化も関係しているでしょうが，本学の就職や将来の進路を意識した学生指導が成果を上げていることがうかがえます。「友人との関係」は平成９年度をピークに減少傾向（21年間で，国際関係学部・文理学部では28ﾎﾟｲﾝﾄ前後減と顕著），「異性や性の問題」は平成６年度をピークに大幅な減少傾向（24年間で，国際関係学部・芸術学部・法学部第一部では26ﾎﾟｲﾝﾄ以上減と顕著）が続いています。また，「家計・学費・借金などの経済問題」はここ９年間で4.6ﾎﾟｲﾝﾄ減少しています。勉学以外の不安・悩みは，平成12年度頃から概ね減少傾向となっています。

図5-2 不安・悩み・問題（トラブル）の種類の経年変化（全体）



3.不安・悩み・問題（トラブル）の解決法

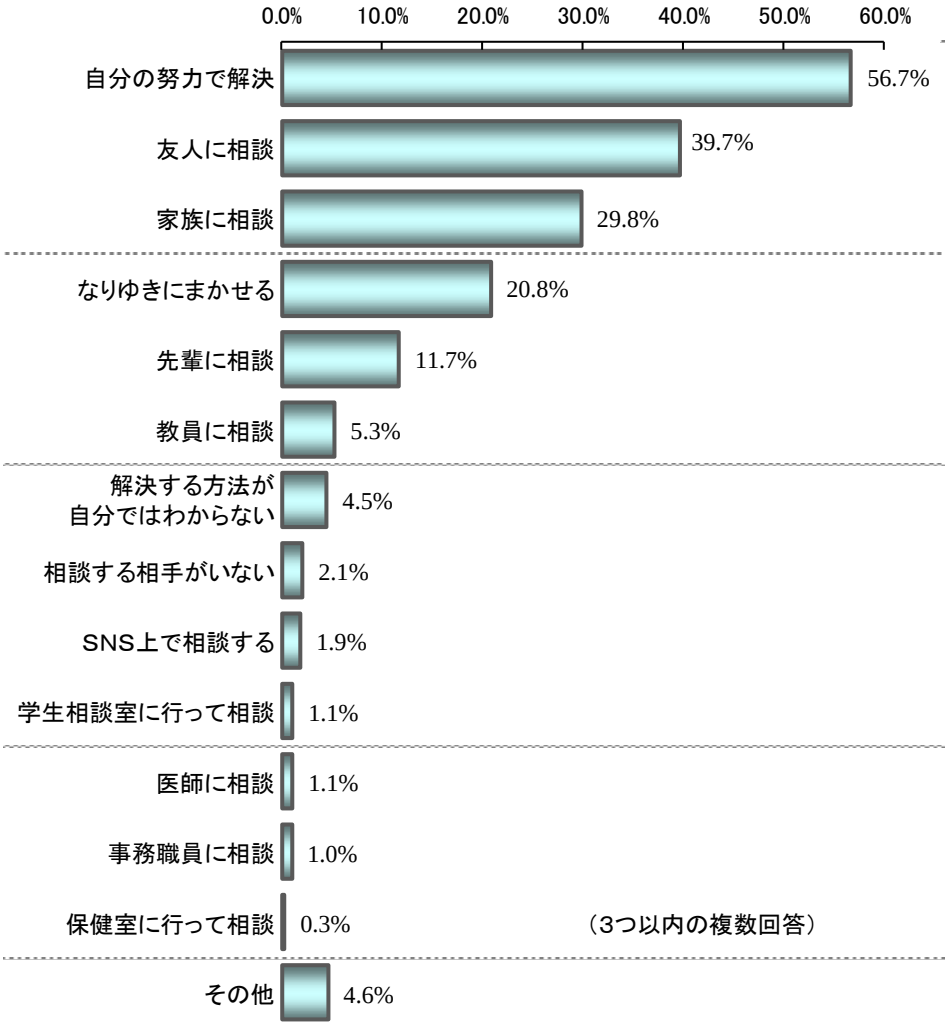
不安・悩みを「自分の努力で解決」する学生が56.7%。
相談相手は友人がトップで家族・先輩が続き，教職員・窓口はあまり活用されていない。
教職員との関係等は「友人」，進路・経済問題等は「家族」等，使い分ける傾向も。

不安・悩み・問題（トラブル）の解決法について全体で見ると，「自分の努力で解決」が56.7%でトップ，「友人に相談」が39.7%で２番目，「家族に相談」が29.8%，「なりゆきにまかせる」が20.8%で続いています。

本学学生の半数強が「勉学上のこと」で不安・悩みを抱えていますが，教員に相談する学生は5.3%にとどまっています。相談相手として，事務職員・学生相談室・保健室は1%以下となっており，教職員や窓口をほとんど活用していないのが現状です。

不安・悩みとの関係をクロス集計してみると，どのような不安・悩みも「自分の努力」で解決する傾向にあるようですが，教職員との関係・対人関係・人生観・アルバイトは「友人」，進路・経済問題・専攻分野・健康は「家族」，家族や家庭内のこと・異性や性は「なりゆきまかせ」と，問題の内容によって解決方法の使い分けをしていることがうかがえます。

図5-3 不安・悩み・問題（トラブル）の解決法（平成30年度全体）



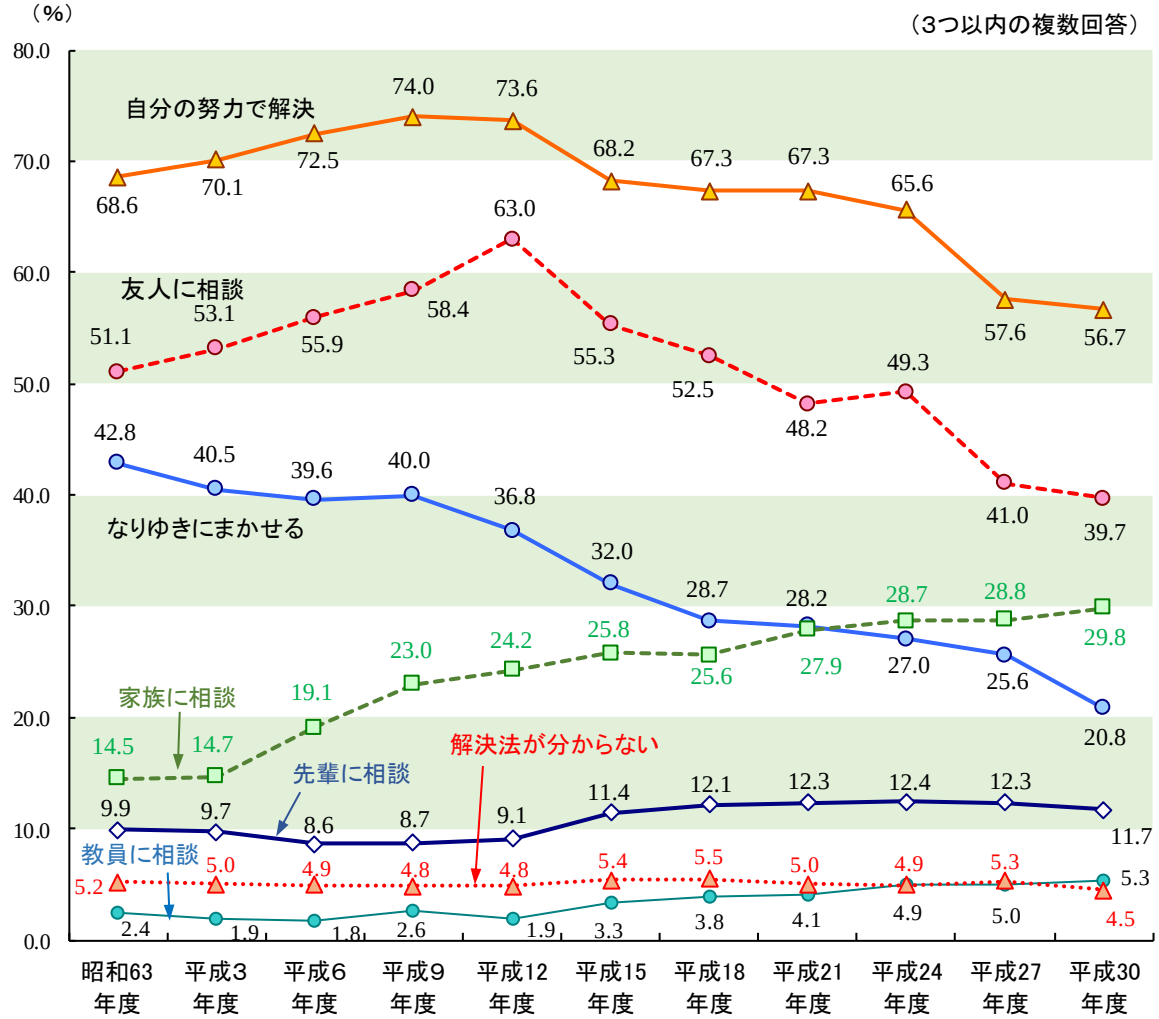
4.不安・悩み・問題(トラブル)の解決法－主なものの経年変化

「自分の努力で解決」「友人に相談」「なりゆきにまかせる」が減少傾向続く。
不安・悩みの減少により，そうした機会が少なくなってきている？

経年変化を見ると，「自分の努力で解決」は平成９年度の74.0%をピークに21年間で17.3ﾎﾟｲﾝﾄ減，「なりゆきにまかせる」は昭和63年度の42.8%から減少傾向が続き，30年間で22.0ﾎﾟｲﾝﾄ減少しています。「友人に相談」は平成12年度の63.0%をピークに減少に転じ，18年間で23.3ﾎﾟｲﾝﾄ減少しています（文理学部・松戸歯学部・法学部第一部では30ﾎﾟｲﾝﾄ以上減）。一方，相談相手として「家族」は昭和63年度の14.5%から増加傾向が続き，30年間で15.3ﾎﾟｲﾝﾄ増加しています。さらに「教員」も漸増傾向にあります。

不安・悩み・問題(トラブル)が勉学上のこと以外減少傾向にあることから，自分の努力で解決したり，友人に相談したりといった機会が減ってきているのかもしれません。

図5-4 不安・悩み・問題(トラブル)の解決法の経年変化(全体)



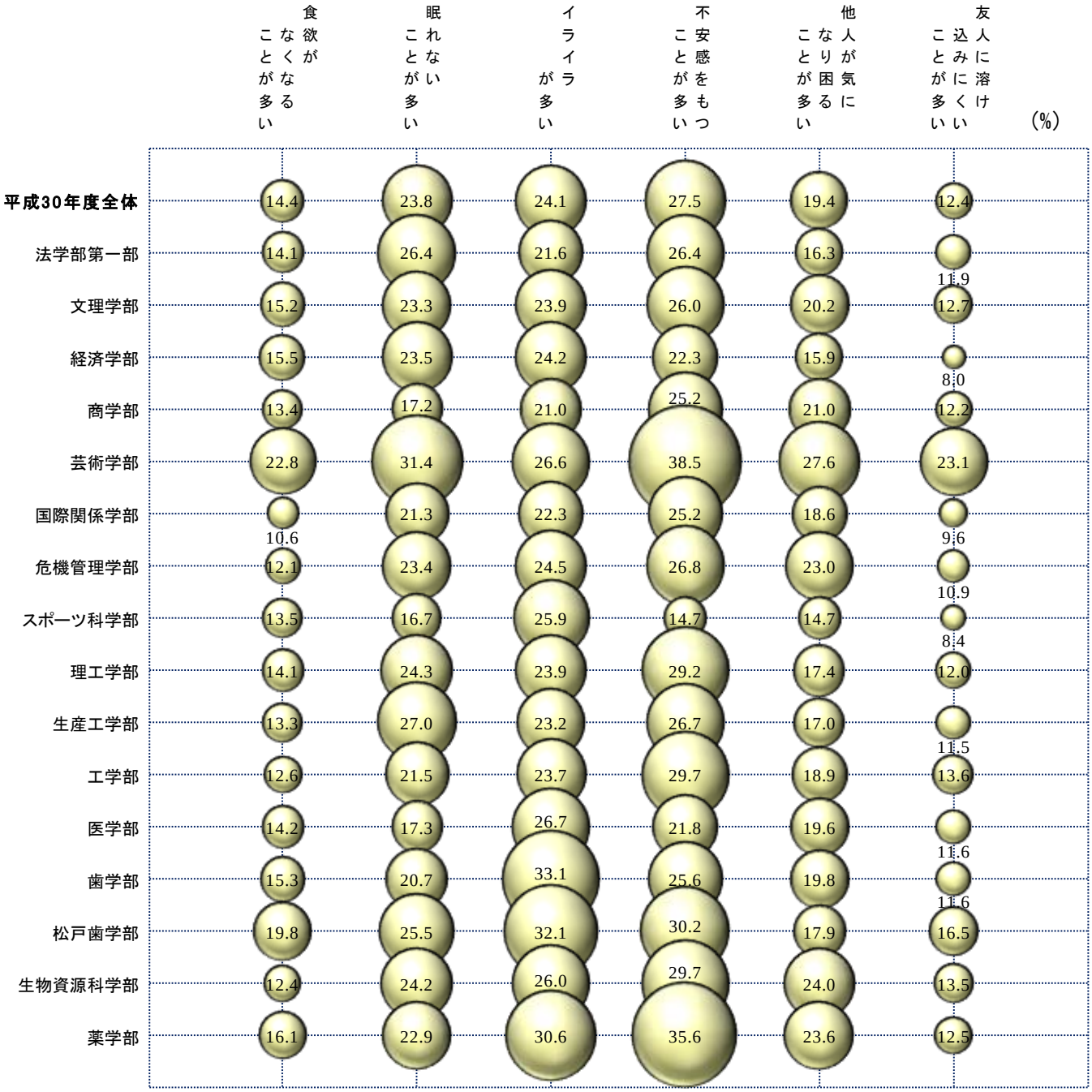
5.日頃の生活で気になること

日頃の生活で「不安感をもつことが多い」学生が27.5%，「イライラが多い」学生が24.1%。
「不安感」は芸術学部・薬学部の学生で高め，
「イライラ」は医歯系学部・スポーツ科学部等で「不安感」を上回っている。

全体で見ると，日頃の生活で「不安感をもつことが多い」が27.5%，「イライラすることが多い」が24.1%，「眠れないことが多い」が23.8%，「他人が気になり困ることが多い」が19.4%，「食欲がなくなることが多い」が14.4%となっています。

学部間で若干差が見られ，「不安感をもつことが多い」は芸術学部・薬学部で35%以上と高く，「イライラが多い」は医歯系学部・スポーツ科学部・経済学部で「不安感」を上回っています。

図5-5 日頃の生活で気になること（平成30年度全体・学部別）



6. 日頃の生活で気になることの経年変化

日頃の生活で「不安感」と「イライラ」が近年減少傾向，一方で不眠傾向が表れる？
不安・悩み・問題(トラブル)の減少も，日常生活に新たな問題？

平成６年度からの経年変化を見ると，日頃の生活で「不安感をもつことが多い」学生が平成９年度から30％強で横這いとなっていましたが，平成21年度から減少に転じ，直近の９年間で4.7ﾎﾟｲﾝﾄ減となっています（文理学部・医学部・商学部で約８ﾎﾟｲﾝﾄ減）。「イライラが多い」学生は平成６年度から約30％でほぼ横這い傾向となっていましたが，直近の９年間で7.0ﾎﾟｲﾝﾄ減少しています（松戸歯学部・法学部第一部・芸術学部・国際関係学部で10ﾎﾟｲﾝ以上減少）。「不安感」や「イライラ」を感じる学生の比率は決して低いとは言えませんが，近年減少傾向にあります。

一方，「眠れないことが多い」学生は直近の６年間で約4.8ﾎﾟｲﾝﾄ増加しています（法学部第一部・松戸歯学部・生物資源科学部・芸術学部で７ﾎﾟｲﾝﾄ以上）。不安・悩み・問題（トラブル）が概して減少傾向を反映して，不安感は概ね減少傾向にあるようですが，不眠傾向が強まっていることは気になるところです。

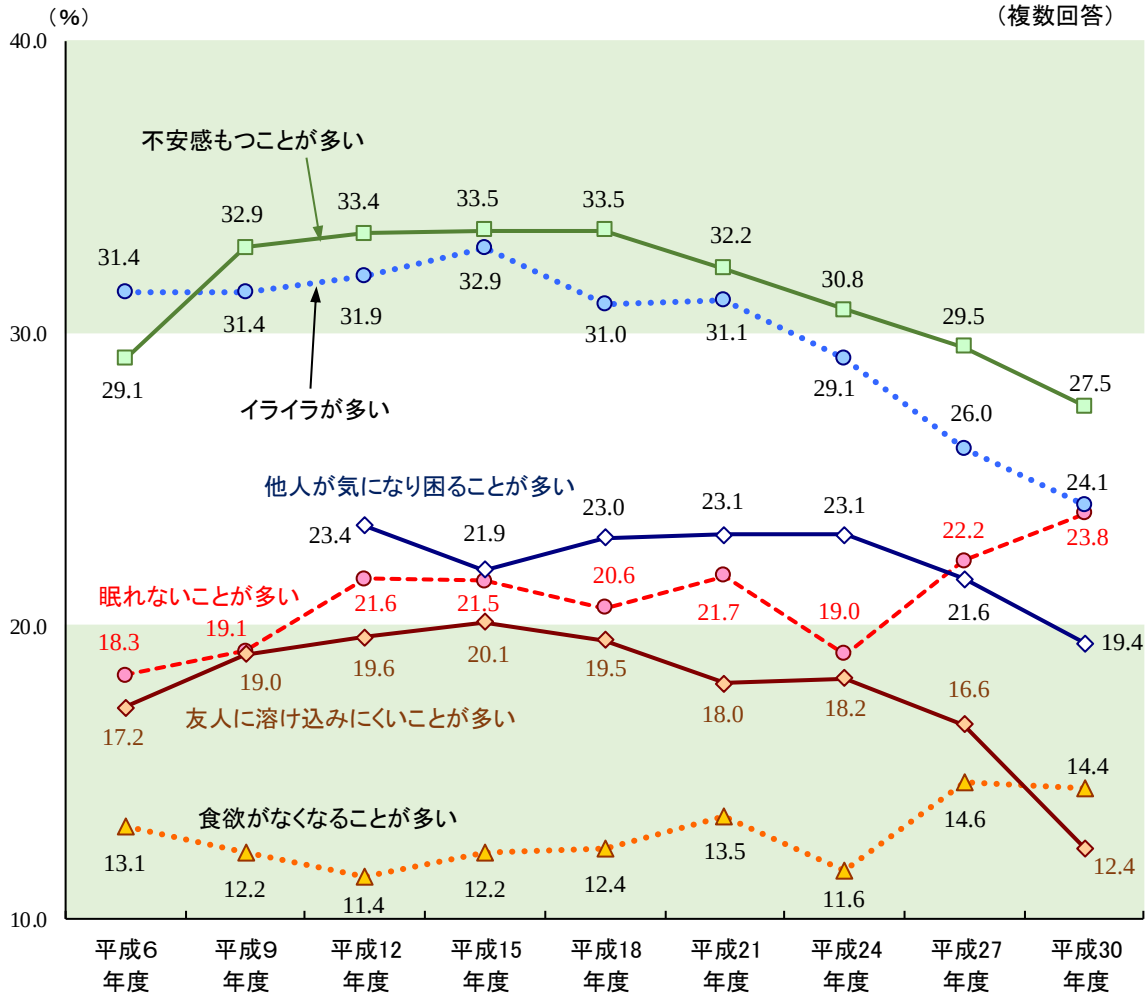



図5-6 日頃の生活で気になることの経年変化（全体）